

新しい時代の国語科教育で求められていること



新しい時代の国語科教育で求められていること

令和3年8月22日（日）

札幌市教育委員会
 学校教育部 教育課程担当課
 指導主事 井上 絵里

急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力は？

- 社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来
- 新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」

新学習指導要領の着実な実施 ↓ **ICTの活用**

⇒ **学習指導・学習評価の改善**

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（令和3年1月26日 中央教育審議会）より

改訂に込められた願いは？

生きる力

新しい学習指導要領

学びの、その先へ

学校で学んだことが、明日、そして将来につながるように、子供の学びが進化します。新しい学習指導要領、スタート。
 小学校：2020年度～ 中学校：2021年度～ 高等学校：2022年度～

幼稚園は、2018年度に新しい幼稚園教育要領がスタート。特別支援学校は、小・中・高等学校学習指導要領に合わせて実施。

改訂に込められた願い

これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、
自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、
それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。
 そして、明るい未来を、共に創っていきたい。
 新しい「学習指導要領」には、そうした願いが込められています。

文部科学省
平成29・30・31年改訂 学習指導要領
周知・広報リーフレット

子どもたちの学びはどう進化するのが？

「生きる力」を育むために

子供たちの学びはどう進化するのが？

主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点から
 「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業を改善します。

一つ一つの知識がつながり、「自もしろい」と思える授業に → 周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業に

見通しをもって、粘り強く取り組む力が身に付く授業に → 自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業に

カリキュラム・マネジメントを確立して教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図ります。

学校教育の効果に検証して改善する → 教員が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業をつくる → 地域と連携し、よりよい学校教育を目指す

学んだことを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力、人間性など

実際の社会や生活で生きて働く
知識及び技能 思考力、判断力、表現力など

未知の状況にも対応できる

社会に出ても学校で学んだことを生かせるよう、
三つの力をバランスよく育みます。

文部科学省
平成29・30・31年改訂 学習指導要領
周知・広報リーフレット

国語科の指導の継承と更なる改善

◎以前より 国語科では言語活動を重視
 言語活動を通して指導事項を指導する基本的な考え方
 受動的な学習→能動的な学習

◎新学習指導要領：言語活動の重要性—継承

【改善】資質・能力の確実な育成
 授業の構想→1. 指導事項に示された資質・能力を育成するのに適した言語活動を設定すること。
 2. 指導事項に基づいた評価規準を設定して評価すること。

指導と評価の一体化

国語科学習指導要領改訂のポイント

- 目標及び内容の構成の改善
- 学習内容の改善・充実
 - ・語彙指導の改善・充実
 - ・情報の扱い方に関する事項の新設
 - ・我が国の言語文化に関する指導の改善・充実
 - ・領域ごとの学習過程の明確化
- 学習の系統性の重視
- 言語活動例を種類ごとに整理
- 読書活動の改善・充実

目標及び内容の構成の改善

国語科で育成を目指す資質・能力を「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」と規定するとともに、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
小学校	日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする	日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う	言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。
中学校	社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする	社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う	言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う



言葉による見方・考え方を働かせるって…？

児童生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり、問い直したりして、言葉への自覚を高めること。
 つまり、言葉で表される話や文章を、意味や働き、使い方などの言葉の様々な側面から総合的に思考・判断し、理解したり表現したりすること、また、その理解や表現について、改めて言葉に着目して吟味すること

学習対象が「言葉そのもの」である国語科においては、「言葉による見方・考え方を働かせなければ、資質・能力の育成はありません。また、「言葉による見方・考え方を働かせるためには「言語活動」の設定が必要となります。

新しい時代の国語科教育で求められていること

言語活動

書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する

付けたい資質・能力 指導事項

資質・能力を身に付けるための手段 言語活動例

(1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

例	B 書くこと	第1学年	第2学年	第3学年
○説明的な文章を書く活動	ア	ア	ア	ア
○実用的な文章を書く活動	イ	イ	イ	イ
○文学的な文章を書く活動	ウ	ウ	ウ	ウ

独立行政法人教職員支援機構 中学校学習指導要領 国語科の改訂のポイント：新学習指導要領編

領域ごとの学習過程の明確化

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」領域ごとの学習過程を明確にしている

ただ活動するだけの学習にならないよう、それぞれの過程で、どのような資質・能力の育成を目指すかを位置付け、指導事項を明確にしている。

「読むこと」領域の構成

学習過程	読むこと			話すこと・聞くこと			書くこと		
	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
読むこと	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア
聞くこと	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ
話すこと	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ
書くこと	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ	エ
総合的な学習の時間	オ	オ	オ	オ	オ	オ	オ	オ	オ
特別活動	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ

【国語編】小学校学習指導要領（平成29年告示）解説より

「考えの形成」の重視

「国語科において「単元を構成する」には、学習過程の明確化や、「考えの形成」の重視を意識することが大切。児童生徒が考えを形成していく学習過程をイメージしながら単元を構想するようにする。

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
考えの形成	オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめること。

「理解」には、内容だけではなく、筆者の論の進め方や取り上げた事例なども含みます。

【国語編】小学校学習指導要領（平成29年告示）解説より

国語科の授業づくり

今まで身に付けてきた資質・能力を確認

育成を目指す資質・能力(どの指導事項か)

適した「言語活動」を具体化する

他の教科等や次の単元とのつながりを構想

学習評価とその方法

12

今まで身に付けてきた資質・能力を確認

1年生

◎比べて読む。事例の順序。【じどうしゃくらべ】

◎比べて読む。重要な語や文を選ぶ。【どうぶつの赤ちゃん】

2年生

◎事柄の順序。作り方を捉えてもらうための文章の構成や写真等、筆者の説明の工夫【馬のおもちゃの作り方】

◎事柄の順序。文章と体験を結び付けて感想をもち、共有【おにごっこ】

3年生

◎考えと事例との関係。事例の提示の仕方の工夫。【すがたをかえる大豆】

◎論の展開に着目して読む。理解したことに基づいて感想や考えをもつ。【ありの行列】

4年生

◎段落相互の関係。対比を用いた説明の工夫。【アップとルーズで伝える】

◎目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約【世界にほこる和紙】

◎興味に沿って読んだり要約したりしたことに基づいて感想や考えを共有する。【ウナギのなぞを追って】

5年生

◎文章の要旨を捉え、自分の考えを発表する【言葉の意味が分かること】

ゼロから学習するわけではありませんね！

13

学習指導要領解説や教育課程編成の手引などで、各学年の重点をおくべき指導内容について確認

○推敲 (p.63)

小学校第5学年及び第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。	エ 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。	エ 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えること。	エ 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えること。

各指導事項の説明の冒頭に、前後の学年の指導事項を表の形式で示している。

【国語編】中学校学習指導要領（平成29年告示）解説より

4年生 ◎段落相互の関係。対比を用いた説明の工夫。【アップとルーズで伝える】

◎目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約【世界にほこる和紙】

◎興味に沿って読んだり要約したりしたことに基づいて感想や考えを共有する。【ウナギのなぞを追って】

5年生 ◎文章の要旨を捉え、自分の考えを発表する【言葉の意味が分かること】

既習の状況を確認

子どもたちは、4年生の「世界にほこる和紙」では、「はじめ」と「終わり」に筆者の考えが書かれている構成を読んでいる。

4年生までの説明文で、中心となる語や文をまとまりごとに見付けている学習はしている。

要点や要約については、これまでの学習で行っている。

筆者の考え方について感想をもつ学習をしている。

感想について、友達と比較し、共有したり違いを感じたりする学習をしている。

要旨を捉える学習を構成する上で、子どもの実態からボトムアップする項目はないか、身に付けていると考え、軽重を付けることができる部分はないか。

小学校1年生の1年間の中でも学習過程に軽重は考えられる

• 「くちばし」「問い」と「答え」の構造理解 ◎構造と内容の把握

- 構造と内容の把握
- 精査・解釈
- 考えの形成
- 共有

↓

• 「うみのかくれんぼ」重要な語や文の選択 ◎精査・解釈

※必ずこの学習過程の順序ではなく、往復することもある

↓

• 「じどう車くらべ」事例の比較。説明、文章構成上の順序 ◎構造と内容の把握

↓

• 「どうぶつの赤ちゃん」事例の比較 重要な語や文の選択 感想や気付きの交流 ◎精査・解釈 ○共有

今日学んだことが子どもの中で、つながる・結びつく・関連が見える授業に

育成を目指す資質・能力(どの指導事項か)

小学校6年 表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう
『鳥獣戯画』を読む 調べた情報の用い方 日本文化を発信しよう

【知識及び技能】
○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。(3)オ)

【思考力・判断力・表現力等】
◎**目的に応じて**、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり論の進め方について考えたりすることができること。(C(1)ウ)
→書くことの学習につながる目的を設定し、『鳥獣戯画』で読んだことが活用できるようにする。

◎筋道の通った文章となるように、**文章全体の構成や展開を考える**ことができること (B(1)イ)
◎引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、**自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫**することができること (B(1)エ)

【学びに向かう力、人間性等】
○粘り強く、考え、学習の見直しをもって、まとめようとする事。

指導事項から指導のねらいを重点化し、有機的に組み合わせて単元構想を！

「書くこと」「読むこと」の複合単元は、児童が単元の導入時から自分が調べて書くという見直しをもち、読むことで学んだことを生かして書くことができるように単元構成を図る。

適した「言語活動」を具体化する

6年 **表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう**

↓

育てたい資質・能力 言語活動

↓

各学校において、創意工夫し、具体化する。

うちの学校の6年生には、どんな言語活動がぴったりかな。

ポイント
書くことの学習につながる目的を設定し、『鳥獣戯画』で読んだことが活用できるような活動。

言語活動との合わせ方を工夫しましょう

実生活や既習からどのくらいの語彙と経験を獲得しているかを把握する。

↓

一方的な提示

↓

やりがいのある単元のゴールの提示する。

↓

ゴールに向かって見通しがもてるような学習計画を子どもとともに立てる。

(例) 見本やモデルの提示による教材との出会いから、学習目標を明確にする。

実際に自分が体験してみて子どもがどこにつまずきそうか考えよう。

教師も体験した上でモデルを吟味し、提示

こんなことができるようになればいいの。やってみたい！

子どもたちの学びが主体的で意味のあるものに

練習したい

書きたい

話し合いたい

今日分かったことは… 次の学習では…

21

児童生徒が主体的に学習に取り組み、活動のゴールに向かって見通しをもちながら学習を進めることができるように

各時間の学習課題は、資質の能力の育成に結び付いているか

設定した言語活動

構造と内容の把握	精査・解釈	考えの形成	共有
身に付ける力	身に付ける力	身に付ける力	身に付ける力
学習課題	学習課題	学習課題	学習課題

児童生徒の目線に立った課題 児童生徒に沿った思考

子どもなら何を疑問に思うか、何に気付くか、どう思うか、どう考えるか、どのように取り組みたいか

22

他の教科等や次の単元とのつながりを構想

指導したいことや身に付けさせたい力がたくさんありすぎて、時数が間に合わない。

資質・能力を確実に身に付けていくことができるように

(例)
シンプル化
軽重を考える
柔軟性をもった単元構成
次単元や他教科での活用

考える時間や話し合う時間ももたから、よく分かった。できたことを次の学習で活用してみたい。

年間を見通して、この単元で身に付けさせたい力を焦点化カリキュラム・マネジメントの実践

新学習指導要領で大事にしたいことは？

学びの主体者は？ …… **児童生徒**

教師が教える授業 ⇒ 児童生徒が学ぶ授業

※課題探究的な学習の充実を！

教師が課題を与える ⇒ 児童生徒が課題をつかむ

※子どもの「やってみよう」「解決したい」という思いを生む指導に！

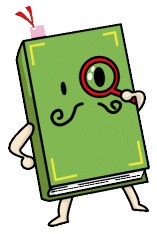
指導が変われば、評価も変わる！
(評価が変わった。⇒指導も変わるはず！)

学習評価とその方法

国語科単元の評価規準の作成ポイント

主体的に学習に取り組む態度の評価について

単元の指導と評価の計画



このようなことはありませんか？

- ・ 言語活動をはじめ、活動にのみ気を取られ、当該単元で身に付けるべき力(指導事項)が不明確になってしまう
- ・ 指導事項が曖昧なために、何を評価していいかわからず、評価がとにかく大変になってしまう
- ・ 知識・技能ばかり見取り、気づいたら他の観点の評価が少ない
- ・ これまでの「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、**性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭できていない**
- ・ 教師が評価のための「記録」に労力を割かれて、指導に注力できない

学習評価の改善の基本的な方向性は？

- ① **児童生徒の学習改善につながるもの**にしていくこと
- ② **教師の指導改善につながるもの**にしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、**必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと**

<参考>報告P. 5 改善等通知1. (4)

国語科における単元の評価規準の作成のポイント

- Step 1
単元で取り上げる指導事項の確認
- Step 2
単元の目標と言語活動の設定
- Step 3
単元の評価規準の設定
- Step 4
単元の指導と評価の計画の設定
- Step 5
評価の実際と手立ての想起

1. 単元で取り上げる指導事項を確認
～何の力を付け、何を評価すればよいのか～
2. 単元の目標を実現するために適した言語活動の設定
★どのような言語活動を設定するのが重要
3. 評価規準を設定 ★3領域のバランス大切
4. 単元のどの段階でどの評価規準に基づいて評価するか**決定**(具体的にシミュレーションする)
5. 評価の**実際と手立ての想定**(BやCの例を具体的に考える)

<参考>P38「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

「指導と評価の一体化」のための学習評価の進め方は？

＜学習評価の進め方＞

- ① 単元（題材）の目標を作成する
 - ② 単元（題材）の評価規準を作成する
 - ③ 指導と評価の計画を作成する
- ＜授業を行う＞
- ④ 観点ごとに総括する



「主体的に学習に取り組む態度」の評価とは？

学びに向かう力、人間性等

観点別学習状況の評価にはなじまない部分（感性、思いやり等）

①

個人内評価（児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況について評価するもの）等を通じて見取る。

※ 特に「感性や思いやり」など児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などについては、積極的に評価し児童生徒に伝えることが重要。

「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分

ア

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。

「学びに向かう力、人間性等」には、ア主体的に学習に取り組む態度として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と、①観点別学習状況の評価や評定にはなじまない部分がある。

- ・ 先生の話をしっかき聞いている。
- ・ たくさん発言をしている。
- ・ 提出物を期限までに出した。
- ・ 板書を丁寧にしている。
- ・ 授業の振り返りを毎回書いている

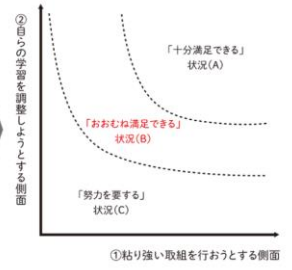
<参考>
独立行政法人教職員支援機構 「新学習指導要領に対応した学習評価（小・中学校編）」

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージは？

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行う中、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



「主体的に学習に取り組む態度」については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、②自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。

ここで評価は、その学習の調整が「適切に行われるか」を必ずしも判断するものではなく、学習の調整が知識及び技能の習得などに結びついていない場合には、教師が学習の進め方を適切に指導することが求められます。

<参考>
独立行政法人教職員支援機構 「新学習指導要領に対応した学習評価（小・中学校編）」
文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター「学習評価の在り方ハンドブック」

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は？

知識及び技能を獲得したり、
思考力、判断力、表現力等を
身に付けたりすることに向けた
粘り強い取組を行う中で、
自らの学習を調整しようとする側面
を踏まえる

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は？

- ①粘り強さ〈積極的に、進んで、粘り強く等〉
- ②自らの学習の調整〈学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等〉
- ③他の2観点において重点とする内容(特に粘り強さを発揮してほしい内容)
- ④当該単元の具体的な言語活動(自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動)

※「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で評価を行う。(例えば、ノートにおける特定の記述などを取り出して、他の観点から切り離して「主体的に学習に取り組む態度」として評価することは適切ではない。)

「主体的に学習に取り組む態度」を見取るためには？

- 先生が説明し
- 先生が板書し
- 先生が指名したり
- 一部の生徒が発言したりし
- 先生の板書を書き写すことのみを求めたり
- 期日までに丸を付けたワークの提出を求めたりし
- それらを集めて一元的に点数化したりする



ような指導観のみでは、評価は困難か

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は？

- 例①スピーチ
- 「粘り強く表現を工夫し、学習の見通しをもって新たに知った言葉を紹介しようとしている」状況
 - ★練習を繰り返して表現の工夫を考えたり修正を加えたりしている姿 →粘り強さ
 - ★表現の修正を行いながら発表会に間に合うようにスピーチを整えようとしている姿 →自らの学習の調整

◎練習を通して相手に伝わるような表現の工夫を考え、発表会に間に合うように選んだ言葉を紹介しようとしている」姿と捉え(「おおむね満足できる」B)とする

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料P48 より

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は？

- 例②古文「枕草子」
- ・学習状況の観察
 - ・1単位時間の終わりの振り返りシート で評価
 - ★(第2時の)振り返りシートの記述内容に「清少納言の物の見方や考え方をどう捉えればよいのか大体分かっていた」「共通点と相違点をいくつか書き出したり、友達に説明して意見をきいたりした」+授業の観察 ⇒「おおむね満足できる状況」B
 - ★(第3時の)振り返りシートの記述内容に「他グループの意見交流の内容を聞きにいった」「グループで選んだ章段以外も読み、清少納言と自分の物の見方や考え方を比べてみた」⇒「興味の広がり」「応用・活用の意識」⇒「十分満足できる」A

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料P71・72 より

Step 4 単元の指導と評価の計画の設定例

評価する時期や場面の精選

・個別具体的な見取り
・学級全体の学習状況を分析

児童自身の振り返り

先生方どうしてB評定と思われる子どもの姿の具体的なイメージを交流

Step 4 単元の指導と評価の計画の設定例

単元の指導と評価の計画の設定

時	学習活動	指導上の留意点
1・2・3	○ごんや兵十の気持ちが大きく変化した場面はどこかについて考えをまとめる。	・物語全体の場面の移り変わりを確認した上で、ごんと兵十のお互いに対する見方が行動が大きく変わった場面として、「ごんが気づかないで始める場面」(3の場面)と、「ごんが兵十にうたれてしまう場面」(6の場面)を取り上げる。 ごんと兵十の気持ちとその成長となった言葉や文をまとめるよう指導する。 ・表情やしぐさなどを想像しながら読むように指導する。 ・行動や会話、場面の状況を表す言葉などに着目するように指導する。
4	【場面】(略)	
5		
6	○うなぎのたすけへのつけないを始める場面のごんと兵十の様子や行動、気持ち	
7	○ごんが兵十にうたれてしまう場面のごんや兵十の気持ちの変化をまとめる。(6の場面) ※図1・2参照	

「おおむね満足できる」状況(8)の想定
「登場人物の気持ちの変化を場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、理由を明確にしながら、ごんの思いが兵十に伝わったかどうかについてノートに記述している児童」と想定

【思考・判断・表現1】
ノート
ごんや兵十の様子や行動、気持ちの変化について想像しているかの確認

【主体的に学習に取り組む態度(1)】
ワークシート・観察
ごんや兵十の気持ちの変化について場面の移り変わりと結び付けて自分の考えをまとめているかの確認

適切な時間に記録に残す評価の時間を設定する。

③や⑥の場面におけるワークシートを基にして考えをまとめるよう指導する。
・友達の見解を参考に考えたことを適宜付箋にまとめるよう指示する。

取り上げる場面のワークシート

↓

交流

↓

ノート

(例) 取り上げる場面を決める。個人→交流 交流後、自分の考えをまとめる

R2.3文部科学省国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料より一部抜粋

Step 4 単元の指導と評価の計画の設定例

初発の感想を振り返り、どのように自分の考えが変わったのかを書くように指導

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
8	○初発の感想を振り返りながら、物語を読んだことに基づいて感じたことや考えたことを文章にまとめる。	・これまでの学習を振り返り、物語を読んで理解したことに基づいて感じたことや考えたことをまとめるよう指示する。 ・初発の感想を振り返り、どのように自分の考えが変わったのかを書くよう指導する。	【思考・判断・表現2】 ノート 文章を読んで理解したことに基づいて、既習内容と結び付けて自分の感想や考えを記述しているかの確認
9			

「おおむね満足できる」状況(8)の想定
「文章を読んで理解したことに基づいて、既習の内容と結び付けて自分の感想や考えをノートにまとめている児童」と想定

適切な時間に記録に残す評価の時間を設定する。

※文章を読んで理解したことに基づいて、自分の感想や考えを記述できない(C)
→これまでのワークシートやノートを読み返して自分の考えの変化に気付かせる手立てを講じる。
※物語の全体像を関係付けたり、これまで学習してきたほかの物語と比較しながら読みたり、今まで理解したことを基にどのように自分の考えを深めたか記述している(A)

R2.3文部科学省国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料より一部抜粋

情報の扱い方に関する事項の新設

これまで各領域の指導事項として点在していたこれらを集約し、「知識・及び技能」として再編成された。

〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の指導事項と組み合わせ、扱うことが基本。単独で教えて練習するのではなく、実際に読んだり書いたりするする際に、活用させながら、理解を深めていくようにする。

→使用している教科書 単元と密接に関連させたつくりとなっている

学年が上がるごとに、子どもに蓄積されていくように工夫する。活用させながら、理解を深めていくようにする。

(例) 「情報と情報の関係」6年生ならば1～5年までの蓄積された捉え方を発揮できるように

1・2年
共通点と相違点の視点

3・4年
考えとそれを支える理由

5・6年
原因と結果

一つの文章を読むときに、目的や課題に応じてどの情報の関係性に着目して読むか自ら選択していくことができるようになる

教科書「じょうほう（情報）」単元について

- ・単独で指導、練習ではなく、実際に「読むこと」「書くこと」の単元構成に組み込み、活用させながら理解を深められるようにする。

例を入れ替えて書いた方が伝わるね。

どちらの統計を使った方が効果的かな。

そういう関係から読むといいんだね。

その関係から書き直した方が伝わりやすいね。

「情報」単元を組み込んだ単元構成の例

- 6年
- 【書くこと】
具体的な事実や考えをもとに、提案する文章を書こう
「わたしたちにできること」
- 【情報】集めるときに使う
「情報と情報をつなげて伝えるとき」

- 環境について自宅や学校で取り組めることを考え、情報を集める
- 情報単元で情報と情報の関係性について学ぶ
- 構成を考える際に、集めた情報を整理する上で学んだことを活用する

ICTを活用した国語科の学習

小学校	中学校
①学習の見通しをもたせ、興味・関心を高める場面	①情報を収集して整理する場面
②情報を収集・整理し、集めた情報を利用して自分の考えを形成する場面	②情報を活用して自分の考えを形成する場面
③考えたことを表現する場面	③考えたことを表現する場面
④学びを共有する場面	④学習の内容を蓄積したり振り返ったりする場面
⑤学習の内容を蓄積したり振り返ったりする場面	

R2. 6文部科学省「教育の情報化の手引き—追補版—」教科等の指導におけるICTの活用より一部抜粋

ICTを活用した協働的な学習

どんな言葉や文を選んでるのかな。

考えが違う人と話し合ってみよう。

Aさんのワークシート

Bさんのワークシート

Cさんのワークシート

Dさんのワークシート

新しい時代の国語科教育で求められていること



<p>事象への働きかけ 課題の把握・課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の授業や振り返りシートから、学習の見直しもついでとして活用する。 ・ 学習意欲を高める資料も提示する。 ・ 課題に対する目的アンケートもとり、授業に活用する。 ・ パフォーマンスも各自撮影し、課題の設定に生かす。 	<p>プラン1 授業のほぼすべての活動で使用する</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料から課題をもつ 意見交流 振り返りの入力 <p><使用アプリ例> Google Classroom, BANGOT, Google スライド、フォーム、ジームボードなど</p>	<p>プラン2 授業の中段以降から使用する</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べ学習で活用 進捗状況を報告 <p><使用アプリ例> Google Classroom, Google チャット、フォーム、ドキュメント、スライドなど</p>
<p>課題解決に向けた追究 課題の解決</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考えを入力し、交流し合えるようにする。 ・ 活動の様子を動画や写真で撮影し、見合う。 ・ 実験のデータや記録もしりする。 ・ グループで共同編集活動を行う。 ・ 情報を収集し、まとめる。 	<p>プラン3 授業の中段で使用する</p> <ul style="list-style-type: none"> 共同編集や意見交流など <p><使用アプリ例> Google チャット、ジームボード、スライド、フォームなど</p>	<p>プラン4 授業のはじめとおわりで使用する</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題までの学びを共有 学んだことを個別に学習 <p><使用アプリ例> Google Classroom, BANGOT, Google フォーム、イーボードなど</p>

**2 学期以降
国語科でも「課題探究的な学習」の中で効果的な端末の活用方法を探りましょう。**

